

編集後記

ここに、『人間学研究 第13号』をお届けいたします。

人間学研究所では前年度に引き続き、シンポジウムをはじめとするいくつかのイベントが企画されました。一口に「イベント」と言ってもその方向性は様々です。「指月スタイル」と銘うたれたウォーキング・セミナーは、教育的意義の大きい企画でしたし、シンポジウム「日本の大学、このごろ焦ってませんか? ~『社会に役立つ大学』の価値を問う~」は研究者としての大学教員のありかたを考えさせられるイベントでした。

これらは一見、バラバラの方向性を目指しているように見えますが、そうではありません。大学教育の中核をなすゼミ形式の創始者(近年は諸説あります。)カール・ヴィルヘルム・フォン・フンボルトは、教育と研究を不可分であるとする「フンボルト主義」を提唱しました。今年度に行われた2つのイベントもまた、このような伝統に則ったものであるといえましょう。論文、イベント報告など多岐に渡る内容ではありますが、そのような背景を視野に入れて、お読みいただければ幸いです。

最後になりましたが、このような理念のもと、当研究所が活動し、本紀要を発行できるのも、研究支援課のみなさん、とりわけ立石尚史さんや課長の鈴木宣行さん、そして査読に加わっていただいた先生方のご尽力の賜物です。この場を借りてみなさまに御礼を申し上げます。来年度以降のさらなる発展を祈って、編集後記とさせていただきます。

長崎励朗

編集委員

委員長：長崎 励朗

編集委員：黒宮 一太、高石 浩一、中窪 靖、依田 博

編集事務：立石 尚史

京都文教大学人間学研究所紀要 第十四号

2014年3月28日 印刷

2014年3月31日 発行

編集・発行 京都文教大学人間学研究所

〒611-0041 宇治市檜島町千足80

☎0774-25-2891

印刷 (株) 栄文堂